

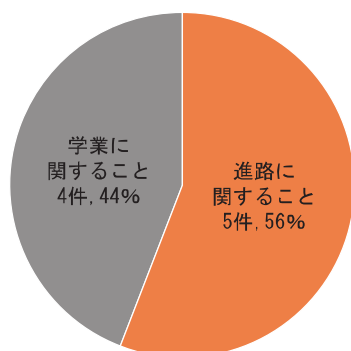
イ 学業

担当職員が、生活保護世帯の子ども本人から受けた相談のうち、学業についての相談は、大学進学資金や就職等の進路に関するものが5件、学力が低いので就職したい等の学業に関するものが4件となっています。

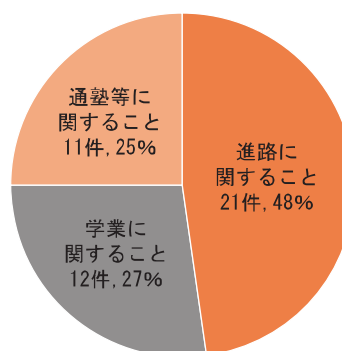
また、保護者から受けた子どもの学業についての相談は、高等学校に進学して欲しい、進学させてやりたい気持ちもあるが早く働いて家計を助けて欲しい等の進路に関するものが21件、学習意欲がない、学力が低い等の学業に関するものが12件、金銭的負担が大きく塾に通わせられない等の通塾に関するものが11件となっています。

[図 学業についての相談内容 (本人から、保護者から)]

(本人から9件)



(保護者から44件)



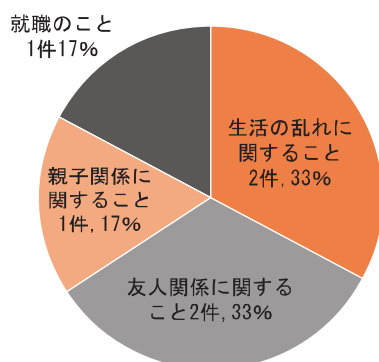
ウ 日常生活

担当職員が、生活保護世帯の子ども本人から受けた相談のうち、日常生活についての相談は、親が家の掃除をしない等の生活の乱れに関するものが2件、生活に余裕がなく友達付き合いができない等の友人に関するものが2件となっています。

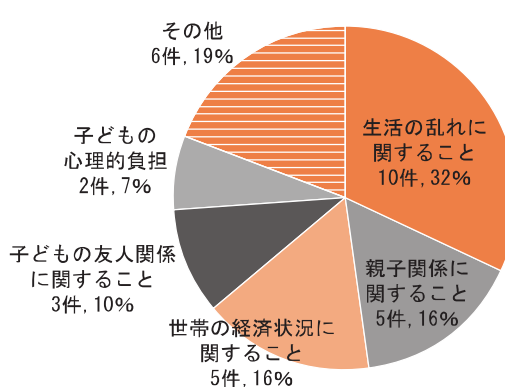
また、保護者から受けた子どもの日常生活に関する相談は、ゲームやスマートフォンばかりしている、昼夜逆転等の生活の乱れに関するものが10件、子どもの反抗等の親子関係に関するものが5件、子どもの食費がかかる等の世帯の経済状況に関するものが5件となっています。

[図 日常生活についての相談内容 (本人から、保護者から)]

(本人から6件)



(保護者から31件)

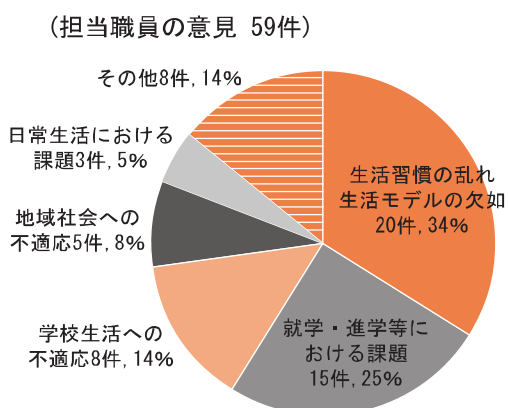


エ 生活保護世帯の子どもの課題

担当職員が、生活保護世帯の子どもについて課題と感じていることは、保護者の生活習慣が乱れていることが多く子どもも同様である、保護者が生活モデルとならない等の「生活習慣の乱れや生活モデルの欠如」に関することが20件となっています。

また、学業に対し意欲がなく成績が悪い子どもが多い、一般家庭と塾や教材で差が大きい等の「就学・進学等における課題」が15件、自己評価が低い子どもが多い、着衣や所持品で劣等感を抱くことのないよう配慮が必要、子どもが学校を休みがち等の「学校生活への不適応」が8件、「地域社会への不適応」が5件、自動車を保有できず生活範囲が狭い等の「日常生活に関する課題」が3件となっています。

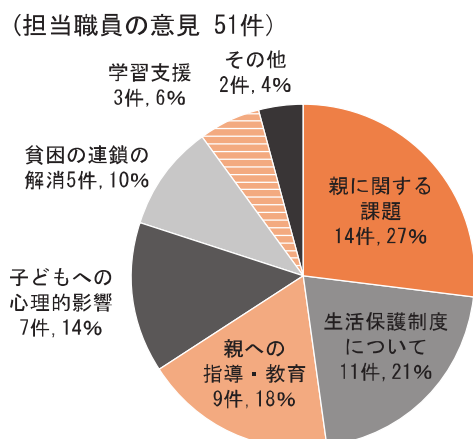
[図 生活保護世帯の子どもの課題]



オ 子どもの貧困について感じること

担当職員が、子どもの貧困の問題について感じることや課題については、保護者の生活や考え方等が子どもに大きく影響する等の「親に関する課題」が14件、家庭環境改善に向けた指導や、親に子どもの進路等について関心を持ってもらう等の「親への指導・教育」が9件、生活保護世帯であることによる「子どもへの心理的影響」を心配する声等が7件、子どもの進路選択の際の支援の必要性等「貧困の連鎖の解消」が5件、無料学習支援の必要性や成果について等が3件となっています。

[図 子どもの貧困について感じること、課題]



○ひとり親家庭における子どもの状況

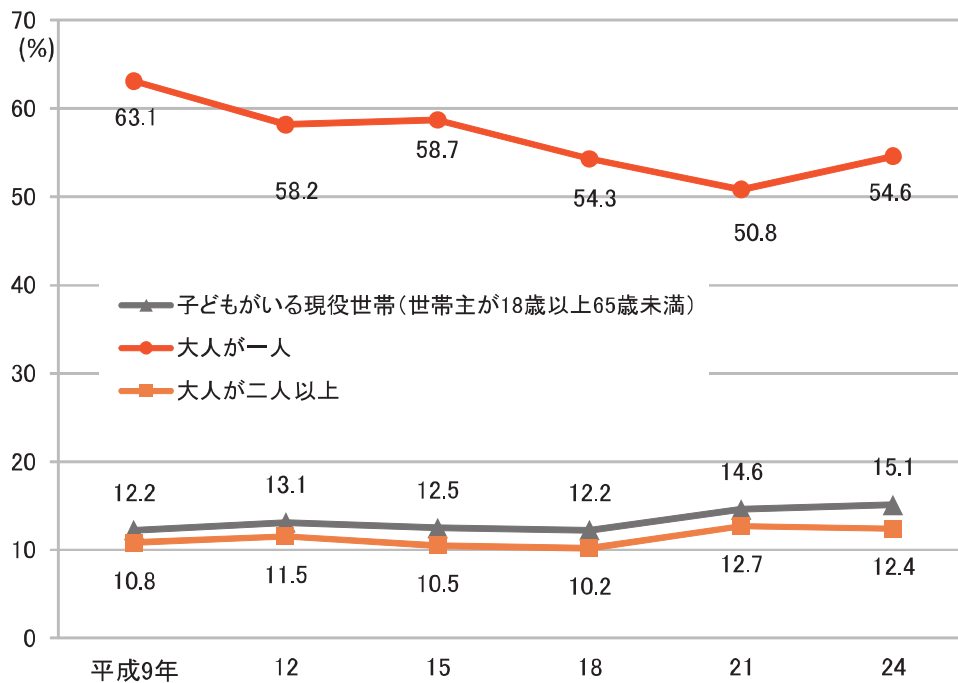
(1) 貧困率

「平成25年国民生活基礎調査」によると、「子どもの貧困」の状況は、子どもが育った環境によって大きく左右されていることがわかります。

子どもがいる現役世帯のうち、ひとり親家庭等の大人が一人で子どもを育てている世帯の貧困率は54.6%であり、大人が二人以上の12.4%と比較し、大きく上回っています。

子どもの貧困対策においては、ひとり親家庭への対策が重要であり、ひとり親家庭の子どもの健全育成のために、家庭が抱える様々な問題に対応するための総合的な支援が求められています。

[図 子どもがいる現役世帯の世帯員の相対的貧困率の年次推移 (全国)]



(厚生労働省「平成25年国民生活基礎調査」)